

地域が誇る文化遺産

曾於市の民俗芸能

曾於市には多くの民俗芸能が伝えられています。これらは、地域の人々の風俗や習慣、信仰に根ざしながら、その土地特有の芸能として伝えられてきました。このような市内の民俗芸能が一同に集まる「曾於市民俗芸能祭り」が、3月23日(日)に開催されます(詳しくは26ページをご覧ください)。今号では、芸能祭りに出演する民俗芸能を紹介します。

民俗芸能とは

市内では、多くの郷土芸能が各地区で行われています。

これらは、地域の人々の風俗や習慣、信仰に根ざしながら、伝えられてきたその土地特有の芸能です。そこには、無病息災や五穀豊穡を願う人々の思いが込められています。

市内の民俗芸能

文化財保護法では、これらの芸能を「無形民俗文化財」として位置づけ、保護の対象としています。

市内では「川内の俵踊り」や「野町そば切り踊り」、「神牟礼太鼓踊り」など複数の民俗芸能

が市の無形民俗文化財に指定されています。また他にも、多くの民俗芸能が各地域で受け継がれています。

民俗芸能のこれから

近年、人口の減少、少子高齢化により、民俗芸能は後継者不足に悩まされています。中には、廃絶したのもも多くあります。

伝統文化・芸能は一度途切れると復活は容易ではありません。先人たちがその土地の風土の中で育んできた伝統文化は、地域の人々が主体となって継承・発展させ、「地域の宝」として、次の世代へ伝える役割が求められています。

川内の俵踊り

かわちのたわらおどり

(市指定無形民俗文化財)

「川内の俵踊り」とは

財部町川内の俵踊りは、戦後間もない昭和22年に始まりました。人々の生活や心に少しでも元気が出るようにすることや、食料を少しでも多く作っていただくとする気持ちを高めようと、川内集落の有志が青年たちに呼びかけ踊らせたことに始まりま

す。その後、時は移り変わり、現在では、集落の婦人を中心に受け継がれています。また、財部小学校が、郷土の伝統芸能を継承しようと10年ほど前から、運動会で5年生全員で踊っています。



俵踊りの由来

俵踊りは、江戸時代に農家に二歳衆の身心強化、団結、親和を図るとともに、農作物を神に奉納したことから始まったとい

伝える人

(川内俵踊り保存会)

かめもとみつお
亀元光夫さん

俵踊りを始めたのは16歳の時でした。当時は、芸能といった郷土芸能くらいで、子どもの頃から歌と踊りが好きだった私が、俵踊りをするようになったのは当然のことでした。また、「川内の青年は俵踊りをする」ことが当たり前の時代でしたからね。

私は、歌や踊りなど様々な芸能に挑戦してきましたが、全ての原点は俵踊りです。会社員の頃は、出演依頼があると、仕事を休んで、踊りや指導をしていました。おかげさまで、テレビ等にも出演することができて、本当に良い経験ができました。現在は、財部小の児童が運動会で踊ってくれています。子どもたちが郷土芸能を踊っている姿を見るのは、本当にうれい



「川内の俵踊り」は、昔ながらの踊りです。人々が豊作を願う気持ちを純粹に表現しています。変わらぬ芸能の良さを皆さんに伝えたいです。

野町そば切り踊り

のまじりそばきりおどり

(市指定無形民俗文化財)

「野町のそば切り踊り」とは

大隅町恒吉の野町に伝わる踊りです。7〜8人で唄いながら踊ります。その格好は、かすりの着物、たすき、白の前掛け、赤の腰巻姿です。演奏は、三味線と太鼓を使います。

踊りは労働作業の踊りに分類され、ソバをつくることから売り歩くところ、売上を計算するところまでを、しぐさ唄ごとに入れ替わってユーモラスに踊ります。



そば切り踊りの由来

慶長四(一五九九)年の庄内けいちょうの乱の時、敵兵にそばを提供し命乞いをしたという逸話が残っています。また、西南戦争せいなんの時にも踊られたといえます。第二次世界大戦前は、お諏訪さま、投谷八幡宮なげたにで定期的に踊られていたようです。

伝える人

(野町民芸保存会)

西京子にしきょうこさん

20代の頃に、野町へ戻ってきて「そば切り踊り」を始めました。母が保存会の役員をしていたことや、踊り手に高齢者が多かったことがきっかけでした。その後、子育て等が忙しくなり、しばらく踊りから離れていましたが、10年ほど前に、郷土の大切な芸能を残していきたいと思い、踊りを再開しました。

現在、野町は高齢化が進んでいます。踊りを保存・継承するために、野町だけではなく、恒吉地区に範囲を広げ、三味線を弾ける人、太鼓を叩ける人を集めて活動をしています(現在の会員は13名)。子どもの頃から慣れ親しんだ踊りを絶やしたくないですね。

「野町そば切り踊り」は、昔ながらの手法でそばを打って切るまでの動作をユニークに表現します。一人ひとりの動きを楽しんで欲しいですね。また、この機会に多くの民俗芸能に触れて欲しいです。



末吉鬼神太鼓

(市指定無形民俗文化財)

昭和55年、文化のかおり高いまちづくりにふさわしい郷土芸能として、創設されました。これまで2回の香港公演や国民文化祭の出演など、国内外で幅広く活動を行っています。また、毎年1月7日の「鬼追い」では、熊野神社境内で奉納演奏を行っており、その幻想的な演奏は見る者を強く引き付けます。



末吉俵おどり

「末吉俵おどり保存会」は平成2年に結成されました。元々は、志布志から伝わった太鼓踊りであるといわれています。末吉町在住の女性で活動し、郷土芸能の継承に取り組んでいます。

末吉では他に、南之郷柿木かきのきで踊られた記録がありますが、現在では踊っていないようです。



青松段の剣舞

昭和60年頃、月野の青松段集

落の上野藤吉が太陽の子保育園に継承したことから始まりです。剣舞の内容は、「曾我兄弟の仇討ち」で、幼いときに父を殺された曾我十郎五郎兄弟が、工藤祐経を討ち取る話です。

能や浄瑠璃の題材として有名な演目を園児たちが勇壮に舞います。



大路角力取り節

角力取り節は、昭和初期までは各地で行われていましたが、いつしか途絶えてしまいました。大隅の大路角力取り節は、昭和49年に婦人部の活動として復活されたものです。ステテコ姿に座布団で腹づくりをして、身体を左右にゆらし踊る姿が、とてもユニークです。テレビなどでは、大隅名物として紹介されています。

